

立命館經濟學

第二卷 第四号

昭和二十八年八月

内 容

論 說

- 危機に立つ反独占政策……………井上 巖 次 郎 (1)
- わが国労働関係の特質(一)……………大 山 敷 太 郎 (13)
そこにおける封建性の根柢を死存……………
- リネサンス・イノボリ・マチオン期における
所有観(上)……………高 橋 良 三 (58)

研 究

- 利子生み資本の変容……………小 牧 聖 徳 (83)
——近代的銀行業の成立をめぐる——
- 「企業者」と資本主義過程の「革新」に
ついて……………浜 崎 正 規 (93)
- シュムペーター学説の主要問題——

講 座

- 任意標本調査法(四)……………関 弥 三 郎 (123)

立 命 館 大 学 經 濟 学 会

立命館経済学 第二卷・第二号

論説

社会の階級性について

阿部 矢二

——学生諸君へ——

事業課税の外形と本質

箕浦 格良

スウィーージー恐慌論の批判

松田 弘三

——恐慌論の基本問題について——

研究

連関財に関する一考察(一)

山田 邦臣

講座

税務会計における貸倒準備金の

繰入処理

高尾 忠男

書評

T・E・ミード・国際収支論

村瀬 武三郎

——国際経済政策理論 第一巻——

発行所 立命館大学人文科学研究所

立命館経済学 第二卷・第三号

論説

我国近世の経済思想(上)

淡川 康一

——大山教授の近著を中心として——

研究

封建体制崩壊に関する一考察

足立 政男

——畿内在郷商人の存在形態を中心に——

棚卸資産評価について

寺島 平

——現行税法をめぐって——

税務会計上の一考察

高尾 忠男

——ディダックションを中心として——

講座

任意標本調査法(三)

関 弥三郎

紹介

C・S・ソロー・「資本主義過程に

おける革新」

浜崎 正規

——シユムペーター理論の批判——

発行所 立命館大学人文科学研究所